

学科到達目標

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
					1年				2年				3年				4年						5年			
					前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	基礎数学Ⅰ	履修単位	3	6																			亀谷 睦 背戸 実友 柳 喜名也		
一般	必修	基礎数学Ⅱ	履修単位	3			6																	亀谷 睦 背戸 実友 柳 喜名也		
一般	必修	数学演習ⅠA	履修単位	1	2																			小泉 耕 蔵		
一般	必修	数学演習ⅠB	履修単位	1			2																	小泉 耕 蔵		
一般	必修	物理ⅠA	履修単位	1	2																			宮野 敏 男		
一般	必修	物理ⅠB	履修単位	1			2																	宮野 敏 男		
一般	必修	化学ⅠA	履修単位	1	2																			小泉 耕 蔵, 宮 崎 昭仁		
一般	必修	化学ⅠB	履修単位	1			2																	小泉 耕 蔵, 宮 崎 昭仁		
一般	必修	保健体育Ⅰ	履修単位	2	2	2																		小野 伸 一郎 梅垣 浩二 竹本 愛太 安岡 由紀乃		
一般	選択	総合英語ⅠA	履修単位	2	4																			荒川 吉 孝巳 辰遼		
一般	選択	総合英語ⅠB	履修単位	2			4																	荒川 吉 孝巳 辰遼		
一般	選択	英会話ⅠA	履修単位	1	2																			ケイジ ヨナサ ンダ グラス ポラン スキー		
一般	選択	英会話ⅠB	履修単位	1			2																	ケイジ ヨナサ ンダ グラス ポラン スキー		
一般	選択	現代文Ⅰ	履修単位	1	2																			田村 修 一		
一般	選択	現代文Ⅱ	履修単位	1			2																	田村 修 一		
一般	選択	古文Ⅰ	履修単位	1	2																			村上 美 登志		
一般	選択	古文Ⅱ	履修単位	1			2																	村上 美 登志		
一般	選択	アート&デザインⅠ	履修単位	1	2																			竹原 豊		
一般	選択	アート&デザインⅡ	履修単位	1			2																	竹原 豊		
一般	選択	日本史	履修単位	1	2																			牧野 雅 司		
一般	選択	地理	履修単位	1			2																	朝倉 慎 人		
一般	必修	基礎数学Ⅲ	履修単位	2				4																背戸 柳 実, 岡 田 浩嗣 後藤 章, 杉 本 利治		

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	保健体育V
科目基礎情報					
科目番号	0042		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論 (改訂増補版)」				
担当教員	小野 伸一郎,梅垣 浩二				
到達目標					
1.積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。 2.課題の解決を目指し、活動を工夫できる。 3.運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。 4.技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができない。	
評価項目2		積極的に課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できない。	
評価項目3		積極的に運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができない。	
		十分に技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
(E)					
教育方法等					
概要	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育てると共に、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てることを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業内容については天候等により順序変更を行う。体調の変化について自己管理すると同時に、担当教員に報告し、健康および安全に留意して授業に参加する。				
注意点	1.関心・意欲・態度, 2.思考・判断, 3.運動の技能, 4.知識・理解, の4つの観点から、実技点75%および理論試験(後期末試験)25%の比率で評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 選択種目によるグループ学習	シラバスおよび授業実施の方法について理解する。	
		2週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		3週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		4週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		5週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		6週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		7週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		8週	前期末にレポート提出		
	2ndQ	9週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		10週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		11週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		12週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		13週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	
		14週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。	

		15週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		2週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		3週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		4週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		5週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		6週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		7週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		8週	後期末にレポート提出	
	4thQ	9週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		10週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		11週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		12週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		13週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		14週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
		15週	選択種目によるグループ学習	安全に運動実践を行い、技術、体力を向上させることができる。選択した種目を楽しみ、スポーツを継続して実践できる。
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	レポート	平常点	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	5	70	0	0	0	100
配点	25	5	70	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合英語 V A
科目基礎情報					
科目番号	0053		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Aim High for the TOEIC Test (成美堂)、Forest Intensive English Grammar in 27 Lessons (桐原書店)				
担当教員	松井 信義, 荒川 吉孝, ケイ ジョナサン, 藤田 憲司				
到達目標					
①単語と発音の関係を理解する。 ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	単語と発音の関係が十分に理解できる。		単語と発音の関係が部分的に理解できる。		単語と発音の関係が理解できない。
評価項目2	TOEICに出題される単語が十分に習得できている。		TOEICに出題される単語が部分的に習得できている。		TOEICに出題される単語が習得できていない。
評価項目3	基本レベルの文法力が十分に身についている。		基本レベルの文法力が部分的に身についている。		基本レベルの文法力が身につけていない。
学科の到達目標項目との関係					
(E)					
教育方法等					
概要	【授業目的】 この授業では、英語の聞き取りと読解能力の向上を目指し、TOEICテスト受験にむけて学ぶことを目的とする。 【Course Objectives】 The objectives of this course are to improve listening, and reading skills and to help students prepare for TOEIC test.				
授業の進め方・方法	【授業方法】 TOEICの問題演習を行いながら聞き取りと読解を中心に指導していく。同時に基本文法をやり直す。Advancedクラスでは、長文読解について併読教材を適宜用いる。Basicでは基本文法、語彙を含め、基本的知識の再学習に重点をおく。時間の余裕があれば「多読」指導も予定している。 【学習方法】 テキストが複数あるので、家庭での学習が重要である。読解については予習が肝心である。リスニングを上達させるには必ず家庭での復習を行うこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間と期末の定期試験を実施する。授業の復習問題を中心として、文法については応用を交えた4択マークシート試験を実施。授業中に単語、基本文などの小テストを実施する。到達目標にある、単語力と文法力の定着をはかる。定期試験を70%、小テストを30%として合算し成績を算出。 【学生へのメッセージ】 この授業では、小手先の点数アップのテクニックではなく、それ以前に必要な最低限の基礎力をつけることを目指します。リスニングや読解も重要ですが、語彙力と基本的な文法力は必須です。特に分からない単語はすぐに辞書を引く癖をつけること。それだけでTOEICの点数はアップします。TOEIC対策を通じて、後まで残る英語力だけでなく、語学の勉強法を身につけてください。 研究室 B棟3階 (B 304) (吉永) 他 内線電話 8901 (吉永) 他 e-mail: arakawa, matsui, jonathan, yosinaga それぞれに@maizuru-ct.ac.jpをつけること				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス説明 A UNIT 5 / B 11章 態(1) (なお、A, Bは次の教科書を示す。A: Perfect Practice for the TOEIC Test (成美堂)、B: Forest Intensive English Grammar in 27 Lessons (桐原書店)。以下、同様。)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。	
		2週	A Unit 5 / B 11章 態(1)、12章 態(2)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。	
		3週	A Unit 5 / B 12章 態(2)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。	
		4週	A Unit 6 / B 13章 不定詞 (1)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。	
		5週	A Unit 6 / B 13章 不定詞 (1)、14章不定詞 (2)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。	
		6週	A Unit 6 / B 14章 不定詞(2)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。	
		7週	review / review		
		8週	★前期中間試験 前期中間試験返却, 到達度確認		

2ndQ	9週	A Unit 7 / B 15章 不定詞(3)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。
	10週	A Unit 7 / B 15章 不定詞(3)、Plus 不定詞	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。
	11週	A Unit 7 / B Plus 不定詞	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。
	12週	A Unit 8 / B 16章 動名詞(1)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。
	13週	A Unit 8 / B 16章 動名詞(1)、17章 動名詞(2)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。
	14週	A Unit 8 / B 17章 動名詞(2)	①単語と発音の関係を理解する ②TOEICに出題される単語を習得する。 ③基本レベルの文法力を身につける。
	15週	review / review	
	16週	★前期末試験 前期末試験返却, 到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3		
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合英語 V B	
科目基礎情報						
科目番号	0054		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	"Get Ready for International Business: English for the workplace."					
担当教員	ケイ ジョナサン					
到達目標						
To acquire a sense of humanity, internationalism, cooperation and also to use English for better communication.						
ルーブリック						
	Ideal Level of Achievement (Very Good)		Standard Level of Achievement (Good)		Unacceptable Level of Achievement (Fail)	
Evaluation 1	Great test results in the mid-term and end-of-term examination		Adequate test results in the mid-term and end-of-term examination		Poor overall test results.	
Evaluation 2	A near perfect homework score, and/or bonus points for class participation.		Acceptable homework, (generally turned in at the start of each class)..		Lack of homework completion.	
Evaluation 3						
学科の到達目標項目との関係						
(E)						
教育方法等						
概要	The goal of this course is to teach students English specific to business situations.					
授業の進め方・方法	Each class starts with the collection of the previous week`s homework papers. Listening to the CD, practicing conversations, and learning vocabulary relevant to the unit will be done in each lesson.					
注意点	Students must be punctual and bring their textbooks and homework materials to every lesson. They should also complete homework assignments as part of their self-study. Reviewing classroom activities outside of class to prepare for tests comes highly recommended. Jonathan Kay Room: B-306 Extention: 8907 E-mail: jonathanアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Let me give you my card	Introducing yourself		
		2週	I start work at 8:30	Describing routines		
		3週	What does your company do?	Describing company business		
		4週	How do you like your job?	Making small talk. Talking about likes and dislikes		
		5週	Can I take a message?	Talking on the phone. Answering the phone		
		6週	Which ones should we order?	Describing and comparing products		
		7週	Mid-term examination			
		8週	Are you free on Tuesday?	Making arrangements		
	4thQ	9週	Where`s the marketing department?	Giving directions. Prepositions of place.		
		10週	How long does the process take?	Sequencing. Describing a process.		
		11週	Exports increased sharply	Talking about data, graphs.		
		12週	I`m leaving tomorrow	Confirming next steps. Talking about future plans.		
		13週	Would you like to try some dim sum?	Entertaining guests		
		14週	Review			
		15週	End-of-semester examination			
		16週	DVD activities.	"The Simpson`s"		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
評価割合						

	Examination	Presentation	Mutual Evaluations between students	Behavior	Portfolio	Other	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
Basic Ability	80	0	0	bonus	0	20	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0	0
Interdisciplinary Ability	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	実践英会話 II
科目基礎情報					
科目番号	0056		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	"Get Real 3" (Student Book).				
担当教員	チャイタンニヤ バンダーレ,クロシュ テラニ,ダグラス ポランスキー,ベラハ アブラハム				
到達目標					
To acquire a sense of humanity, internationalism, cooperation and also to use English for better communication.					
ルーブリック					
	Ideal Level of Achievement (Very Good)		Standard Level of Achievement (Good)		Unacceptable Level of Achievement (Fail)
Evaluation 1	Students can understand and reproduce the target language at an above average level.		Students demonstrate an acceptable level of understanding.		Students are neither able to use nor remember the target language.
Evaluation 2					
Evaluation 3					
学科の到達目標項目との関係					
(E)					
教育方法等					
概要	Students will be able to communicate and present their ideas competently in English. Reading, writing, listening and natural speaking skills will help facilitate an exchange and discussion of ideas. The learners will study from the "Get Real 3" textbook, which should take them from a pre-intermediate to a low-intermediate level. Natural conversation with other students and a native speaker will be encouraged.				
授業の進め方・方法	"Get Real 3" will be used every lesson along with supplementary material. The lessons contain reading, writing, listening, and speaking activities to thoroughly present new material. Jonathan Kay Room: B-306 Extention: 8907 E-mail: jonathan@maizuru-ct.ac.jp				
注意点	Please remember to complete your homework, and bring your textbook to every lesson! Students must be punctual and bring their textbooks and homework materials to every lesson. They should also complete homework assignments as part of their self-study. Reviewing classroom activities outside of class to prepare for tests comes highly recommended. Jonathan Kay Room: B-306 Extention: 8907 E-mail: jonathanアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	This room is too noisy.	Making complaints.	
		2週	This curry is too spicy.	Food dishes and adjectives to describe them.	
		3週	The subway is much cheaper.	Comparative adjectives with adverbs of degree.	
		4週	He`s very motivated.	Adjectives to describe personal qualities.	
		5週	I wish it was not raining.	Wish (plus) the simple past tense.	
		6週	I wish he was more easygoing.	Adjectives to describe personality.	
		7週	Review 3, mid-term test		
		8週	What have you been doing?	Present perfect continuous tense; for/since	
	4thQ	9週	I feel so embarrassed!	Adjectives to express emotions.	
		10週	What would you do?	Second conditional	
		11週	You`re very tolerant.	Adjectives to describe personal attitudes.	
		12週	I`ve had my room painted.	Have (something) done	
		13週	I`ve had my hair dyed.	Parts of the body; things people have done to their bodies.	
		14週	Review 4, end-of-term examination		
		15週	View DVDs	Anything educational that fits into a ninety minute class period.	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
-------	---------	----	-------------	--	---	---

評価割合

	Examination	Presentation	Mutual Evaluations between students	Behavior	Portfolio	Other	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
Basic Ability	30	0	0	0	0	10	40
Technical Ability	30	0	0	0	0	0	30
Interdisciplinary Ability	30	0	0	0	0	0	30

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ドイツ文化論 I
科目基礎情報					
科目番号	0071		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	授業内にプリントを配布する。				
担当教員	石澤 将人				
到達目標					
1. ヨーロッパ古代・中世史の理解 2. ドイツ近世史の理解 3. 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。 4. ドイツ近代文学の鑑賞 5. 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 6. 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7. 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ヨーロッパ古代・中世史を十分理解している。	ヨーロッパ古代・中世史の大枠を理解できている。	ヨーロッパ古代・中世史の意義がわからない。		
評価項目2	ドイツ近世史を十分理解している。	ドイツ近世史の大枠を理解できている。	ドイツ近世史の意義がわからない。		
評価項目3	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、キーワードを理解している。	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、曖昧な理解しかない。		
評価項目4	ドイツ近代文学の鑑賞する力がある。	ドイツ近代文学の基礎知識がある。	ドイツ近代文学について何も知らない。		
評価項目5	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	哲学者の思想のキーワードを理解している。	哲学者の思想について何も知らない。		
評価項目6	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みの基礎を理解している。	今日の国際的な政治・経済の仕組みの基礎を理解していない。		
評価項目7	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	文化、民族・宗教などが多様であることを理解している。	文化、民族・宗教などの多様性を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
(E)					
教育方法等					
概要	近現代のドイツの歴史は、わが国の歴史とも密接に関わっている。本授業ではとりわけドイツの分化について理解してもらうために、近代を中心にドイツの文学や思想について、その背景となる歴史も含めて概観していく。 Learning German history and literature in order to understand its modern culture.				
授業の進め方・方法	講義が中心となるが、出席者への質問も行う。また、授業時間内に時間を取ってテーマに応じた文学作品の一部を読む。指名して朗読してもらうこともある。講義後にB5一枚程度で各自考察を書いてもらう。背景となる世界史の知識については講義中に十分な説明をするつもりであるが、できるだけ予習もしておいてもらいたい。また、参考図書などは授業内で紹介するので、機会を見て目を通してもらいたい。				
注意点	前期・後期とも中間試験の代わりにレポートの提出を課し、期末試験と合わせて評価する(70%)。また、授業内に提出してもらう考察を一回につき2点満点で評価し(前期・後期それぞれ30点満点)、これに加える。授業内容を理解しているか、そして自分がそれに関して何を考えたかが書けているかについて到達目標の到達度に基づき評価する。 日本とドイツはよく似ているとされることがあります。この評価はある意味では正しく、別の意味ではひどく一面的とも言えます。では日本とドイツはどこが似ていてどこが異なっているのでしょうか。そして、ドイツの歴史や文化を学ぶことから現代日本に生きるみなさんが汲み取れるものはなんのでしょうか。この授業ではそれを考えていくことになりませんが、私から提供できるのはみなさんがひとりひとり考えるための材料だけです。単なる知識の一方的な授受ではなく、参加者がみんなで考える授業にしたいと思います。 研究室 B棟2階非常勤講師室 内線電話 e-mail:				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	
		2週	ドイツ古代史	ヨーロッパ古代・中世史の理解	
		3週	ドイツ中世史1	ヨーロッパ古代・中世史の理解	
		4週	ドイツ中世史2	ヨーロッパ古代・中世史の理解	
		5週	ドイツ近世史1	ドイツ近世史の理解	
		6週	ドイツ近世史2	ドイツ近世史の理解	
		7週	ドイツ近世史3	ドイツ近世史の理解 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	

2ndQ	8週	ドイツ啓蒙思想	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	9週	フランス革命とドイツ	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	10週	シュトゥルム・ウント・ドラング	ドイツ近代文学の鑑賞
	11週	ドイツ古典主義1	ドイツ近代文学の鑑賞 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	12週	ドイツ古典主義2	ドイツ近代文学の鑑賞 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	13週	ロマン主義の文学1	ドイツ近代文学の鑑賞 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	14週	ロマン主義の文学2	ドイツ近代文学の鑑賞 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
	15週	到達度確認	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	2	
			相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	2	
			ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	2	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	1	
			事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	韓国語 I		
科目基礎情報							
科目番号	0072	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般科目	対象学年	5				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	生越直樹・書喜淑『ことばの架け橋 改訂版』2011						
担当教員	呉 青姫						
到達目標							
1. ハングル (24文字) の基本文字を正確に覚える。 2. 複雑な発音規則を理解する。 3. 初歩的な韓国語表現を理解する。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	ハングルを正確に覚えた。	ハングルのほぼ覚えた。	ハングルのあまり覚えられていない。				
評価項目2	複雑な発音規則を正確に理解した。	複雑な発音規則をほぼ理解した。	複雑な発音規則をあまり理解できていない。				
評価項目3	初歩的な韓国語表現を正確に理解した。	初歩的な韓国語表現をほぼ理解した。	初歩的な韓国語表現をあまり理解できていない。				
学科の到達目標項目との関係							
(E)							
教育方法等							
概要	韓国語で基本表現を話せるようにすることを目的としている。そのため、ハングル (24文字) を正確に覚えたいうえで基本文法を学習し、応用力を身につける。また、韓国語会話を通じて韓国文化、生活習慣などを学習する。 The purpose of learning the Korean language is to understand culture, customs and life in Korea through speaking simple expressions.						
授業の進め方・方法	前期は、ハングルと韓国語の基本文法について説明する。ハングルと文法は、復習や質問をしながら正確に覚えるようにする。会話に入る前に、ハングルの発音を覚えておく必要があるため、前期中間までに正確に覚えること。ハングルの読み方は発音に注意して、CDを聴きながらきちんと覚えること。最近は韓流ブームで韓国に関する映画、雑誌、書物などが多く出ているので、それらを参考にしても良いと思われる。						
注意点	・成績は100点満点である。出席率 (15%) 授業中の小テスト (10%) 中間会話試験 (25%) 期末筆記試験 (50%) 韓国・朝鮮語を本格的に学びたい人や韓国文化に興味を持っている人は誰でも歓迎します。近年、韓流ブームにともなって日韓の文化交流が活発になり、韓国の映画、ドラマ、書物なども多く入ってきています。この授業を通じて、韓国語とともに韓国の文化や生活習慣も学んでください。両国間の関係は、文化交流だけでなく、経済的な関係においても重要性が高まっています。韓国語を学習し、両国の架け橋の役割をしたいと思っている学生はぜひこの授業で韓国語の基本表現を身につけてください。 研究室 非常勤講師控室 内線電話 e-mail:						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、ハングルについて：母音 (1)	1. ハングル (24文字) の基本文字を正確に覚える。			
		2週	ハングルについて：子音 (1)	1. ハングル (24文字) の基本文字を正確に覚える。			
		3週	ハングルについて：子音 (2)	1. ハングル (24文字) の基本文字を正確に覚える。			
		4週	ハングルについて：母音 (2)	1. ハングル (24文字) の基本文字を正確に覚える。			
		5週	パッチムと連音化	2. 複雑な発音規則を理解する。			
		6週	発音の変化	2. 複雑な発音規則を理解する。			
		7週	発音のまとめと小テスト	2. 複雑な発音規則を理解する。			
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	ハングルの書き方と発音の練習 (復習)	1. ハングル (24文字) の基本文字を正確に覚える。			
		10週	名詞文の叙述・疑問	3. 初歩的な韓国語表現を理解する。			
		11週	存在文の叙述・疑問	3. 初歩的な韓国語表現を理解する。			
		12週	用言文の叙述・疑問	3. 初歩的な韓国語表現を理解する。			
		13週	漢字語数詞	3. 初歩的な韓国語表現を理解する。			
		14週	映像で韓国、韓国語を楽しむ	3. 初歩的な韓国語表現を理解する。			
		15週	総復習	3. 初歩的な韓国語表現を理解する。			
		16週	前期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	0	0	0	0	15	100
基礎的能力	85	0	0	0	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	現代社会と宗教 I	
科目基礎情報						
科目番号	0073		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	石井研士『プレステップ 宗教学』（弘文堂）					
担当教員	吉永 進一					
到達目標						
1 基本的宗教現象の理解 2 宗教の実存的意味の理解 3 宗教の現代社会における意義の理解						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	基本的宗教現象を十分理解している		基本的宗教現象の説明を理解できる		基本的宗教現象を理解できない	
評価項目 2	宗教の実存的意味を十分理解している		宗教の実存的意味の説明を理解できる		宗教の実存的意味を理解できない	
評価項目 3	宗教の現代社会における意義を十分理解している		宗教の現代社会における意義の説明を理解できる		宗教の現代社会における意義を理解できない	
学科の到達目標項目との関係						
(E) (F)						
教育方法等						
概要	世界の宗教について基本的な知識を習得し、近代、現代日本の文化と社会における宗教の機能と意味の理解を目的とする。 This course will provide students with basic knowledge of world religions and an informed insight into the role played by religion in the culture and society of Japan in the modern age.					
授業の進め方・方法	Iでは教科書『プレステップ 宗教学』を用いて授業を進めていく。IIでは主に教科書『宗教学キーワード』を用いる。前後期共に、必要な場合は、ビデオ教材を利用する。基本的には授業に集中して聴講し、考察してもらいたい。不足分があれば教科書ならびに配布されたプリントについて復習してもらいたい。指定文献について前期、後期、それぞれ一回ずつレポートを課す予定。					
注意点	授業内容に関係した試験を実施、内容の理解を深めるための課題についてレポートを課す。到達目標にあるように、前期は、宗教現象、宗教の意味、現代社会での宗教についての試験であり、後期は他宗教の理解と共存についての考察を問う試験とする。試験を60%、レポートを40%として成績を算出。 この講義では、前半は宗教に共通する基本的な行為と意味について学び、後半は個別の宗教を学ぶ予定にしています。宗教というと、現代日本人はどうしても抹茶臭いもの、古臭いもの、自分たちと縁がないものと考えがちですが、世界の多くの地域では宗教は生きられたものであり、いまでも社会的な勢力を維持し続けています。とりわけユダヤ教、キリスト教、イスラームという一神教の地域では、宗教は決して過去の遺物ではなく、現代を動かす力となっています。日本社会においても、一見すると無宗教のように見えながらも、一枚表面をはぐと、そこには仮装した宗教伝統が見て取れるはず。北近畿は、江戸時代の巡礼、近代では新宗教運動と、宗教の盛んな地域でした。宗教を学ぶことで、私たちの住んでいる地域を学び、私たちがどうしてこうなったのかというからくりを学ぶことができます。 研究室 B棟3階 (B-304) 内線電話 8901 e-mail: yosinaga@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明 舞鶴の宗教から日本の宗教まで	1 基本的宗教現象の理解		
		2週	第1章宗教学への招待	1 基本的宗教現象の理解		
		3週	第2章祈り	1 基本的宗教現象の理解		
		4週	第3章儀礼	1 基本的宗教現象の理解		
		5週	第4章祭り	1 基本的宗教現象の理解		
		6週	第5章修行と戒律	1 基本的宗教現象の理解		
		7週	復習	1 基本的宗教現象の理解		
		8週	第6章神話	1 基本的宗教現象の理解		
	2ndQ	9週	第7章死後の世界	2 宗教の実存的意味の理解		
		10週	第8章シャマニズム	2 宗教の実存的意味の理解		
		11週	第9章聖地と巡礼	2 宗教の実存的意味の理解		
		12週	第10章宗教学への接近	3 宗教の現代社会における意義の理解		
		13週	第11章宗教団体の多様性	3 宗教の現代社会における意義の理解		
		14週	第12章現代日本の宗教	3 宗教の現代社会における意義の理解		
		15週	前期末試験返却, 到達度確認			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	

			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	1	
			公民	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
			公民	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	1	
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	1	
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	現代日本の政治・経済と法 I	
科目基礎情報						
科目番号	0074		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	指定しない					
担当教員	児玉 圭司					
到達目標						
<p>1. 現代社会の政治的・経済的諸課題, および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。</p> <p>2. 現代日本の諸課題について, 多様な情報を収集し, 理解・分析できる。</p> <p>3. 自己の主張を, 説得力に富む形で他者に説明するとともに, 報告・議論を行える。</p>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	1. について理解できている。		1. について概ね理解できている。		1. について理解できていない。	
評価項目2	2. について実践できている。		2. について概ね実践できている。		2. について実践できていない。	
評価項目3	3. について実践できている。		3. について概ね実践できている。		3. について実践できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
(E) (F) (I)						
教育方法等						
概要	<p>1. これまでに身につけた政治学・経済学や法学の知識を生かして, 現代日本の諸問題を理解する。</p> <p>2. 討論や報告を通じて, 自身の理解を説明する能力を培う。</p> <p>【Course Objectives】 This course is designed to help students:</p> <p>1. to understand various issues in modern Japan through the knowledge of politics, economy and law already acquired.</p> <p>2. to cultivate their abilities to explain their understandings through debates and presentations.</p>					
授業の進め方・方法	<p>1. 賛否の分かれる時事問題について, グループに分かれて調査を行ったのち, 報告してもらう。</p> <p>2. 履修者自身が討論やプレゼンテーションを聞き, 評価する。</p> <p>【学習方法】</p> <p>1. 他学生の報告では発言や表現技術をよく見て, 自身のスキルアップに役立ててもらいたい。</p> <p>2. 時事問題や地域社会を素材とするため, 普段から興味を持って情報を集めるとともに, 自身の考えを深めてもらいたい。</p>					
注意点	<p>1. 評価基準は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時間内に行う小テスト (20%)。 ・レポート等の提出物・班報告への貢献 (40%)。 ・班ごとに行う報告の評価 (40%)。 <p>2. 上記の到達目標に基づき, 各項目の理解についての到達度を評価基準とする。</p> <p>【担当教員】</p> <p>教員名 児玉 圭司 研究室 A棟3階 (A-302) 内線電話 8908 e-mail: kodama@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p> <p>【学生へのメッセージ】</p> <p>※履修者の人数によっては講義形式を変更する可能性があります。</p>					
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明—講義の目的と進め方		本講義の目的を理解する。	
		2週	〔講義〕日本の法律・司法制度の概要・復習		「法学Ⅰ, Ⅱ」の内容を復習し, 理解する。	
		3週	ケーススタディ		「法学Ⅰ, Ⅱ」で学んだ内容を, 具体的な事例に応用できる。	
		4週	〔講義〕日本の司法制度をめぐる諸問題		日本の司法制度の諸問題について, 理解する。	
		5週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		6週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		7週	プレゼンテーション		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		8週	前期中間試験		第2~7週に学んだ内容を理解する。	
	2ndQ	9週	レポート返却とコメント/意見交換		自身の調査した内容を他者に報告し, それについて意見を交わすことができる。	
		10週	〔講義〕金融教育について		「経済学」の内容を復習し, 理解する。	
		11週	投資先を考えてみよう		「経済学」で学んだ内容を生かし, 投資先とその理由を検討する。	
		12週	〔講義〕日本経済の抱える諸問題		日本経済が抱える諸問題について, 理解する。	
		13週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		14週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		15週	プレゼンテーション		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		16週	前期期末試験返却, 到達度確認		第10~15週に学んだ内容を理解する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	現代社会の政治的・経済的諸課題, および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	20	40	0	100
基礎的能力	0	20	0	10	20	0	50
専門的能力	0	20	0	10	20	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	地域学 I
科目基礎情報					
科目番号	0075	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない。				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 2 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し, その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地域の歴史, 社会環境及び諸制度を十分に理解できる。	地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解できる。	地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解できない。		
評価項目2	産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について十分に理解できる。	産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できない。		
評価項目3	地域が抱える諸課題を見出し, その要因や解決策を十分に考えることができる。	地域が抱える諸課題を見出し, その要因や解決策を考えることができる。	地域が抱える諸課題を見出し, その要因や解決策を考えることができない。		
評価項目4	自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。	自らがつかんだ問題点を他者に伝えることができる。	自らがつかんだ問題点を他者に伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
(E) (F) (I)					
教育方法等					
概要	地域の歴史及び社会環境や制度を理解した上で, 地域が抱える諸課題とその要因を見出し, その解決策を自ら考えることを目的とする。また, 発表を通じて, 自身の理解を説明する能力を培う。				
授業の進め方・方法	1. 地域に関わる様々なテーマを講義形式で概説する。 2. 地域に関する問題について, ティスカッションを行う。 3. 自らの考えを発表する。				
注意点	常に地域の問題を自分の問題としてとらえ, 考察を深めていってほしい。 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスに基づく講義内容の説明と課題の設定	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。	
		2週	舞鶴の成り立ち	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	
		3週	舞鶴鎮守府と地域社会	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	
		4週	舞鶴と「引揚」	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	
		5週	地域社会と墓	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	
		6週	地域社会と教育	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	
		7週	現代の地域社会と課題	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し, その要因や解決策を考える。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験の解説と振り返り	1 地域の歴史, 社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性, 産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し, その要因や解決策を考える。	

	10週	地域社会と人口問題	1 地域の歴史、社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。
	11週	地域振興策としての企業誘致	1 地域の歴史、社会環境及び諸制度を理解する。 ② 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。
	12週	ねらいの説明とプレゼンテーション計画の作成	3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。
	13週	プレゼンテーション準備（1）	3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。
	14週	プレゼンテーション準備（2）	3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。
	15週	プレゼンテーション・ディスカッション	3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。
	16週	前期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	0	0	40	0	100
基礎的能力	40	20	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ドイツ文化論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0076		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	授業内にプリントを配布する。				
担当教員	石澤 将人				
到達目標					
1. ヨーロッパ古代・中世史の理解 2. ドイツ近世史の理解 3. 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。 4. ドイツ近代文学の鑑賞 5. 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 6. 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7. 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ヨーロッパ古代・中世史を十分理解している。	ヨーロッパ古代・中世史の大枠を理解できている。	ヨーロッパ古代・中世史の意義がわからない。		
評価項目2	ドイツ近世史を十分理解している。	ドイツ近世史の大枠を理解できている。	ドイツ近世史の意義がわからない。		
評価項目3	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、キーワードを理解している。	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、曖昧な理解しかない。		
評価項目4	ドイツ近代文学の鑑賞する力がある。	ドイツ近代文学の基礎知識がある。	ドイツ近代文学について何も知らない。		
評価項目5	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	哲学者の思想のキーワードを理解している。	哲学者の思想について何も知らない。		
評価項目6	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みの基礎を理解している。	今日の国際的な政治・経済の仕組みの基礎を理解していない。		
評価項目7	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	文化、民族・宗教などが多様であることを理解している。	文化、民族・宗教などの多様性を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
(E)					
教育方法等					
概要	近現代のドイツの歴史は、わが国の歴史とも密接に関わっている。本授業ではとりわけドイツの分化について理解してもらうために、近代を中心にドイツの文学や思想について、その背景となる歴史も含めて概観していく。 Learning German history and literature in order to understand its modern culture.				
授業の進め方・方法	講義が中心となるが、出席者への質問も行う。また、授業時間内に時間を取ってテーマに応じた文学作品の一部を読む。指名して朗読してもらうこともある。講義後にB5一枚程度で各自考察を書いてもらう。背景となる世界史の知識については講義中に十分な説明をするつもりであるが、できるだけ予習もしておいてもらいたい。また、参考図書などは授業内で紹介するので、機会を見て目を通してもらいたい。				
注意点	前期・後期とも中間試験の代わりにレポートの提出を課し、期末試験と合わせて評価する(70%)。また、授業内に提出してもらう考察を一回につき2点満点で評価し(前期・後期それぞれ30点満点)、これに加える。授業内容を理解しているか、そして自分がそれに関して何を考えたかが書けているかについて到達目標の到達度に基づき評価する。 日本とドイツはよく似ているとされることがあります。この評価はある意味では正しく、別の意味ではひどく一面的とも言えます。では日本とドイツはどこが似ていてどこが異なっているのでしょうか。そして、ドイツの歴史や文化を学ぶことから現代日本に生きるみなさんが汲み取れるものはなんのでしょうか。この授業ではそれを考えていくこととなりますが、私から提供できるのはみなさんがひとりひとり考えるための材料だけです。単なる知識の一方的な授受ではなく、参加者がみんなで考える授業にしたいと思います。 研究室 B棟2階非常勤講師室 内線電話 e-mail:				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明	ドイツ近世史の理解 国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	
		2週	新人文主義	ドイツ近代文学の鑑賞 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	
		3週	ピーターマイヤー	ドイツ近代文学の鑑賞	
		4週	写実主義の文学1	ドイツ近代文学の鑑賞	
		5週	写実主義の文学1	ドイツ近代文学の鑑賞	
		6週	ニーチェと生の哲学	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	

4thQ	7週	自然主義	ドイツ近代文学の鑑賞
	8週	世紀転換期の文化1	ドイツ近代文学の鑑賞 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。
	9週	世紀転換期の文化2	ドイツ近代文学の鑑賞 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。
	10週	第一次世界大戦とドイツ文学	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。
	11週	ナチズムと映画	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。
	12週	日独交流史1	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。
	13週	日独交流史2	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。
	14週	授業総括	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。
	15週	到達度確認	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解 世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	2
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	2
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	2
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	1
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	1

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	韓国語Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0077	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般科目	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	生越直樹・書喜漱『ことばの架け橋 改訂版』2011						
担当教員	呉 青姫						
到達目標							
4. 初級韓国語文法を理解する。 5. 日常会話の基礎を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	初級韓国語文法を正確に理解した。	初級韓国語文法をほぼ理解した。	初級韓国語文法をあまり理解していません。				
評価項目2	韓国語日常会話の基礎を正確に身につけた。	韓国語日常会話の基礎をほぼ身につけた。	韓国語日常会話の基礎をあまり身につけていない。				
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
(E)							
教育方法等							
概要	韓国語で基本表現を話せるようにすることを目的としている。そのため、ハングル(24文字)を正確に覚えようとして基本文法を学習し、応用力を身につける。また、韓国語会話を通じて韓国文化、生活習慣などを学習する。 The purpose of learning the Korean language is to understand culture, customs and life in Korea through speaking simple expressions.						
授業の進め方・方法	後期は、日常会話を中心に授業を進めるが、学生が会話に参加できるように時間を配分する。基本会話を効率的に身につけるために、毎週、授業中に小テストを実施する。						
注意点	・成績は100点満点である。出席率(15%)授業中の小テスト(10%)中間会話試験(25%)期末筆記試験(50%) 韓国・朝鮮語を本格的に学びたい人や韓国文化に興味を持っている人は誰でも歓迎します。近年、韓流ブームにともなう日韓の文化交流が活発になり、韓国の映画、ドラマ、書物なども多く入ってきています。この授業を通じて、韓国語とともに韓国の文化や生活習慣も学んでください。両国間の関係は、文化交流だけでなく、経済的な関係においても重要性が高まっています。韓国語を学習し、両国の架け橋の役割をしたいと思っている学生はぜひこの授業で韓国語の基本表現を身につけてください。 研究室 非常勤講師控室 内線電話 e-mail:						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		2週	名詞文・存在文・用言文の叙述・疑問の復習	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		3週	漢字語数詞の復習	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		4週	否定形	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		5週	固有語数詞	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		6週	尊敬形	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		7週	自己紹介	5. 日常会話の基礎を身につける。			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	連用形	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		10週	打ち解けた丁寧表現(へヨ体の叙述・疑問)(1)	5. 日常会話の基礎を身につける。			
		11週	打ち解けた丁寧表現(へヨ体の叙述・疑問)(2)	5. 日常会話の基礎を身につける。			
		12週	へヨ体の尊敬形	5. 日常会話の基礎を身につける。			
		13週	過去形	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		14週	連体形	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		15週	総復習	4. 初級韓国語文法を理解する。			
		16週	後期期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	0	0	0	0	15	100
基礎的能力	85	0	0	0	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	現代社会と宗教Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	島園進・他『宗教学キーワード』（有斐閣）				
担当教員	吉永 進一				
到達目標					
4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目 4		多様な宗教的価値観と慣習を十分理解している。	多様な宗教的価値観と慣習の説明を理解できる。	多様な宗教的価値観と慣習を理解できない。	
評価項目 5		宗教と生活の関係を十分理解している。	宗教と生活の関係を説明を理解できる。	宗教と生活の関係を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
(E) (F)					
教育方法等					
概要	世界の宗教について基本的な知識を習得し、近代、現代日本の文化と社会における宗教の機能と意味の理解を目的とする。 This course will provide students with basic knowledge of world religions and an informed insight into the role played by religion in the culture and society of Japan in the modern age.				
授業の進め方・方法	Iでは教科書『プレステップ 宗教学』を用いて授業を進めていく。IIでは主に教科書『宗教学キーワード』を用いる。前後期共に、必要な場合は、ビデオ教材を利用する。 基本的には授業に集中して聴講し、考察してもらいたい。不足分があれば教科書ならびに配布されたプリントについて復習してもらいたい。指定文献について前期、後期、それぞれ一回ずつレポートを課す予定。				
注意点	授業内容に関係した試験を実施、内容の理解を深めるための課題についてレポートを課す。到達目標にあるように、前期は、宗教現象、宗教の意味、現代社会での宗教についての試験であり、後期は他宗教の理解と共存についての考察を問う試験とする。試験を60%、レポートを40%として成績を算出。 この講義では、前半は宗教に共通する基本的な行為と意味について学び、後半は個別の宗教を学ぶ予定にしています。宗教というと、現代日本人はどうしても抹茶臭いもの、古臭いもの、自分たちと縁がないものと考えがちですが、世界の多くの地域では宗教は生きられたものであり、いまでも社会的な勢力を維持し続けています。とりわけユダヤ教、キリスト教、イスラームという一神教の地域では、宗教は決して過去の遺物ではなく、現代を動かす力となっています。日本社会においても、一見すると無宗教のように見えながらも、一枚表面をはぐと、そこには仮装した宗教伝統が見て取れるはず。北近畿は、江戸時代の巡礼、近代では新宗教運動と、宗教の盛んな地域でした。宗教を学ぶことで、私たちの住んでいる地域を学び、私たちがどうしてこうなったのかというからくりを学ぶことができるでしょう。 研究室 B棟3階 (B-304) 内線電話 8901 e-mail: yosinaga@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 宗教と宗教学	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		2週	ユダヤ教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		3週	キリスト教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		4週	イスラーム	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		5週	仏教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		6週	伝統宗教の近代化 (1)	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		7週	伝統宗教の近代化 (2)	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		8週	新宗教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
	4thQ	9週	近世日本の新宗教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		10週	近代日本の新宗教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		11週	大本教	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		12週	ニューエイジ・スピリチュアリティ	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		13週	カルト問題	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		14週	復習	4 多様な宗教的価値観と慣習の理解。 5 宗教と生活の関係の理解。	
		15週	後期期末試験返却, 到達度確認		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	1	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	1	
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	1	
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	40	0	110
基礎的能力	70	0	0	0	40	0	110
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	現代日本の政治・経済と法Ⅱ			
科目基礎情報								
科目番号	0079		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般科目		対象学年	5				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	指定しない							
担当教員	児玉 圭司							
到達目標								
1. 現代社会の政治的・経済的諸課題, および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。 2. 地域の諸課題を理解するとともに, その解決策を考える。 3. 自己の主張を, 説得力に富む形で他者に説明するとともに, 報告を行える。								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	1. について理解できている。		1. について概ね理解できている。		1. について理解できていない。			
評価項目2	2. について実践できている。		2. について概ね実践できている。		2. について実践できていない。			
評価項目3	3. について実践できている。		3. について概ね実践できている。		3. について実践できていない。			
学科の到達目標項目との関係								
(E) (F) (I)								
教育方法等								
概要	1. これまでに身につけた政治学・経済学や法学の知識を生かして, 現代日本の諸問題を理解する。 2. 討論や報告を通じて, 自身の理解を説明する能力を培う。 【Course Objectives】 This course is designed to help students: 1. to understand various issues in modern Japan through the knowledge of politics, economy and law already acquired. 2. to cultivate their abilities to explain their understandings through debates and presentations.							
授業の進め方・方法	1. グループに分かれて「まちづくり」案を練ってもらった上で, プレゼンテーションを行う。 2. 履修者自身が討論やプレゼンテーションを聞き, 評価する。 【学習方法】 1. 他学生の報告では発言や表現技術をよく見て, 自身のスキルアップに役立ててもらいたい。 2. 時事問題や地域社会を素材とするため, 普段から興味を持って情報を集めるとともに, 自身の考えを深めてもらいたい。							
注意点	1. 評価基準は以下の通り。 ・講義時間内に行う小テスト (20%)。 ・レポート等の提出物・班報告への貢献 (40%)。 ・班ごとに行う報告の評価 (40%)。 2. 上記の到達目標に基づき, 各項目の理解についての到達度を評価基準とする。 【担当教員】 教員名 児玉 圭司 研究室 A棟3階 (A-302) 内線電話 8908 e-mail: kodama@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること) 【学生へのメッセージ】 ※履修者の人数によっては講義形式を変更する可能性があります。							
授業計画								
	週	授業内容			週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明—講義の目的と進め方			本講義の目的について理解する。		
		2週	〔講義〕舞鶴市のまちづくり			地域の現状と諸課題について理解する。		
		3週	〔講義〕地域の諸問題と振興策			地域の現状と諸課題について理解する。		
		4週	まちづくりに関する先進事例の調査			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		5週	グループワーク① (準備)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		6週	グループワーク② (準備)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		7週	グループワーク③ (中間報告)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		8週	後期中間試験			第2~7週で学んだ内容について理解する。		
	4thQ	9週	外部講師による講演 (予定。実施時期には変更あり)			地域の現状と諸課題について理解を深める。		
		10週	グループワーク④ (準備)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		11週	グループワーク⑤ (準備)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		12週	グループワーク⑥ (校外調査)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		13週	グループワーク⑦ (準備)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		14週	グループワーク⑧ (準備)			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		15週	「舞鶴市のまちづくり」プレゼンテーション大会			グループでの円滑なコミュニケーションを図る。		
		16週	後期期末試験返却, 到達度確認			第9~15週で学んだ内容について理解を深める。		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	現代社会の政治的・経済的諸課題, および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。			3	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	

総合評価割合	0	40	0	20	40	0	100
基礎的能力	0	20	0	10	20	0	50
専門的能力	0	20	0	10	20	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	地域学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0080		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない。				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
5 地域社会における様々な取り組みについての知識を広げる。 ⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地域社会における様々な取り組みについての知識を十分に広げることができる。	地域社会における様々な取り組みについての知識を広げることができる。	地域社会における様々な取り組みについての知識を広げることができない。		
評価項目2	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について十分に理解できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できない。		
評価項目3	自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。	自らがつかんだ問題点や解決策を他者に伝えることができる。	自らがつかんだ問題点や解決策を他者に伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
(E) (F) (I)					
教育方法等					
概要	地域の歴史及び社会環境や制度を理解した上で、地域が抱える諸課題とその要因を見出し、その解決策を自ら考えることを目的とする。また、発表を通じて、自身の理解を説明する能力を培う。				
授業の進め方・方法	1. 地域に関する様々なテーマを講義形式で概説する。 2. 地域に関する問題について、ディスカッションを行う。 3. 自らの考えを発表する。				
注意点	常に地域の問題を自分の問題としてとらえ、考察を深めていってほしい。 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバスに基づく講義内容の説明と課題の設定	5 地域社会における様々な取り組みについての知識を広げる。	
		2週	地域振興策としての観光	5 地域社会における様々な取り組みについての知識を広げる。 ⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	
		3週	地域社会と文化財	5 地域社会における様々な取り組みについての知識を広げる。 ⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	
		4週	ねらいの説明とプレゼンテーション計画の作成	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。	
		5週	学外調査	5 地域社会における様々な取り組みについての知識を広げる。 ⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。	
		6週	プレゼンテーション準備 (1)	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。	
		7週	プレゼンテーション準備 (2)	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 7 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。	
		8週	後期中間試験		

4thQ	9週	中間報告・ディスカッション	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
	10週	プレゼンテーション準備（3）	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
	11週	プレゼンテーション準備（4）	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
	12週	プレゼンテーション準備（5）	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
	13週	プレゼンテーション準備（6）	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
	14週	プレゼンテーション・ディスカッション（1）	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
	15週	プレゼンテーション・ディスカッション（2）	⑥ 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 ⑦ 自らがつかんだ問題点や解決策を他者に的確に伝えることができる。
16週	後期期末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	
			地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	日本語 E	
科目基礎情報							
科目番号	0095		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科目		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	『実力日本語 (下)』						
担当教員	田村 修一						
到達目標							
日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得したと認められない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
(E)							
教育方法等							
概要	以下の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも毎週行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4方面から日本語の技能を高める。						
授業の進め方・方法	CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。講義は文法的解説を中心とする。プリントの問題演習での定着をはかる。映像教材も適宜使用する。						
注意点	成績評価は、上記の到達目標に基づき、以下の内容の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による(100%)。 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、意志 形式名詞「つもりだ」		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		2週	条件 「ば」(「雨が降れば、行きません」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		3週	指示 「しなさい」(「ごみを片付けなさい」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		4週	前提条件 「なら」(「旅行するなら、夏休みがいいですよ」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		5週	補助動詞 受給関係(「私は友達に料理を作ってあげました」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		6週	対人行為の敬語表現(「荷物をお持ちしましょう」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		7週	補助動詞「しまう」(「宿題を忘れてしまいました」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	「よう」例示(「京都のようなところに住みたいです」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		10週	生起可能性・推量(「地震があるかもしれません」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		11週	形容詞+「そうだ」 様態(「この料理はおいしそうだ」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		12週	動詞+「そうだ」 様態(「雨が降りそうだ」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		13週	「よう」目的(「忘れないようにメモをします」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		14週	受身(「私たちは友人に招待されました」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		15週	「よう」比喩(「この花はまるで雪のように白いです」)		日本語の文法的知識を核として、1聞く、2話す、3読む、4書く、の4技能を総合的に習得する。		
		16週	前期期末試験、前期期末試験返却、到達度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語 F		
科目基礎情報							
科目番号	0096	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般科目	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	『実力日本語 (下)』						
担当教員	田村 修一						
到達目標							
日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。				
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
(E)							
教育方法等							
概要	以下の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも毎週行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。						
授業の進め方・方法	CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。講義は文法的解説を中心とする。プリントの問題演習での定着をはかる。映像教材も適宜使用する。						
注意点	成績評価は、上記の到達目標に基づき、以下の内容の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による (100%)。 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、伝聞「昔、東京で大きい地震があったそうだ」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		2週	逆説「のに」(「彼に頼んだのに、やってくれませんでした」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		3週	時の局面「ところだ」(「今、出かけるところだ」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		4週	様態 がる(「妹は人形をほしがっています」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		5週	「よう」推量(「どうも熱が高いようです」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		6週	使役(「先生は学生を立たせました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		7週	使役型他動詞(「兄は弟を泣かせました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	使役受身(「私は父に仕事を手伝わされました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		10週	確信「はず」・発見の「と」(「家に帰ると、張さんが来ていました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		11週	原因・理由「ため」(「大雪が降ったため、列車が不通になりました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		12週	「らしい」推量(「どうも熱があるらしいです」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		13週	動詞命令形・禁止命令「な」(「早く行け」・「行くな」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		14週	敬語表現 尊敬語(「先生は車にお乗りになられました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		15週	敬語表現 謙譲語(「私はきのうここに参りました」)	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。			
		16週	後期期末試験、後期期末試験返却、到達度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0